トピック

日本初の社会調査学科が誕生する

社会調査協会理事　中 野　正 大

「一般社団法人社会調査協会定款」の第3条にあるように，社会調査協会は，現代社会における社会調査の公益的な役割の重要性に鑑みて，質の高い社会調査の普及と発展を目的としている。しかし残念ながら，質の高い社会調査が日本に普及しているとは言い難いのが現状である。そのため社会調査協会と連携して，社会調査の専門的な教育を推進する教育組織が，今必要なのではなかろうか。

この時代の求める要請と関係者の期待を追い風にして，来年4月，奈良大学社会学部は，日本初となる社会調査学科を開設する。現在ある現代社会学科を社会調査学科に名称変更し，社会調査の教育・研究に今まで以上に力を入れて取り組む予定である。

奈良大学社会学部は，1988年の設立当初より，「リサーチ・オリエンティッド」を標榜し，社会調査協会による「社会調査士」資格認定が始まるはるか以前から，「奈良大学社会調査士」の資格を独自に認定してきた歴史をもつ。また，現在の専任教員のなかで，専門社会調査士の資格をもつ者は8名を数え，奈良大学大学院社会学研究科では，「専門社会調査士」資格取得のための科目も開講されている。このような経緯から，今回の全国初の社会調査学科誕生へ向けて昨年からワーキンググループを作って準備を進めてきた。

社会調査士資格取得のための科目を中心にした社会調査学科のカリキュラムでは，情報学と社会統計学を基礎教育の分野として位置づけている。また，社会調査技術ばかりだけではなく，社会についての理論，関心，経験などを総合的に身に付けることができるように，社会学，文化人類学，経済学・経営学という学問領域を深く学ぶ講義科目や演習（ゼミ）が開設されている。

講義科目としては，「産業と技術の発展」「企業倫理と消費者」「日本のアイデンティティと世界戦略」など，現代社会に対する学生の関心を引き出すための科目群を用意し，学外へ出かけて社会調査を実践的に学ぶための実習科目も手厚く準備されている。とくに，2年次に半期2時限連続で開講する「社会体験実習」と，3年次に通年2時限連続で開講する「社会調査実習」は，社会調査学科必修の専門科目として，社会調査協会の標準カリキュラムが求める実習科目にふさわしいものとなるはずである。

私たちは，社会調査学科で学ぶ学生が，社会調査士に加え，社会に出て役に立つ資格や知識を身に付けて，卒業後に社会のさまざまな分野で活躍することを期待している。販売士，ファイナンシャルプランナー，基本情報技術者などの資格試験を受験するための知識を学ぶ専門科目や，「メディア・リテラシー」に関する科目群の履修を通して，現代社会を生きるうえでの確かな知識・行動力・倫理の習得が望まれる。なお，加えて，高等学校教員免許（公民）と中学校教員免許（社会科）の教育職員免許状を取得する課程も，現在設置申請中である。

奈良大学社会学部社会調査学科の取り組みが，社会調査の専門的な教育・研究を推進するうえでのふさわしいモデルになるかどうかは，来年度以降の私たち奈良大学社会学部の教員の努力にかかっている。しかし，大学という高等教育機関を通じた社会調査の普及・発展は，日本で社会調査に携わる者一人ひとりの課題でもあり続けている。今後とも，各方面のご理解とご協力を切にお願いする。